

平成16・17年度自己点検評価

シンクロトロン光応用研究センター

I 対象組織の現況及び特徴

1 現況

- (1) 機関名 佐賀大学
- (2) センター名
シンクロトロン光応用研究センター
- (3) 所在地 佐賀県佐賀市本庄町1
- (4) 教育組織との関係
教員は工学系研究科に属している。
- (5) 教員数
教授2名，講師1名，助手2名

2 特徴

平成15年4月1日付で省令施設として教授，助教授，助手各々2名，合計6名の定員にて新設された（この内，助教授1名は流動定員であり、九州大学工学研究院より移動した）。これに先立ち，平成13年6月，佐賀県知事の強い要請もあつて，学内措置にて学内の定員2名（教授1，助教授1）で発足した経緯がある。

本センターは，シンクロトロン光応用研究を中心とした学術発展と研究教育の拠点となることを目指し，同時に佐賀県のシンクロトロン光応用研究施設事業を全面的に支援・協力することによって，地域の発展に寄与することを大きな使命の一つとしている。センターの運営委員として学外から，九州大学大学院工学研究院、同総合理工学研究院、産総研九州センター、佐賀県立九州シンクロトロン光研究センターから各1名が参加している。また、法人化後には流動教員の枠を増加させ、九州大学から10名が流動している。さらに学内からも多数が協力教員として参画している。また、センター特任教授、専門委員、特別専門委員などに、全国の専門家を委嘱し、協力を頂いている。

九州地域の国立大学法人と佐賀大学がシンクロトロン光に関する大学間協定を締結しており、連携大学間会議を主催している。また高エネルギー加速器研究機構物質構造科学研究所、自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設、中国上海交通大学複合材料

研究所、中国科学院応用物理研究所、韓国嘯項放射光研究所、露国クリャトフ研究所放射光研究センター、英国リバプール大学物理学教室など、国内外のシンクロtron光関連機関と連携協力協定を締結している。

センターは、本庄地区以外にも、佐賀県立九州シンクロtron光研究センターに鳥栖支所、上海交通大学複合材料研究所に上海支部、佐賀大学東京サテライトに東京支部、を設置して活動を展開している。

II 研究の目的及び重点課題

1 研究目的

シンクロtron光を利用した未来を切り拓く最先端の応用研究を遂行し、地元産業の高度化と大学発の新産業創出につながるシンクロtron光技術を確立することを基本目的とする。

2. 重点的な研究課題

「半導体と生命体を融合した環境・医用・エネルギー材料開発研究」をテーマとして掲げ、世界的視点から先導的先端的なシンクロtron光応用研究を行うことを目指したナノスケール表面・界面ダイナミクス用ビームラインの整備が、平成14年度補正予算で認められ、建設済みである。

平成17年度からは、特別教育研究経費（地域連携融合事業）として「シンクロtron光を利用した佐賀県等との一体化による先導的工学的基盤研究」が認められている。

III 点検評価ならびに活動報告の方式

センターは、以下の点検評価ならびに活動報告を行っている。

1. 国立大学法人佐賀大学の中期目標ならびに各年度目標に則った点検評価

平成16年度、平成17年度ともに、すでに報告済みで、大学としての全体的な取り纏めが行われている。

2. 大学評価機構の評価（試行）

平成18年に実施中で、一部はすでに報告済みで、大学としての全体的な取り纏めが行われている。

3. 個人点検評価

平成17年度から開始したために取り組みが遅れたが、平成18年2月のセンター運営委員会で個人点検評価に関する実施規則ならびに実施方法を定め、平成18年3月に第一回の点検評価を行った。

4. 外部点検評価

外部の2名の専門家をお願いして平成18年6月に実施し、現在その報告を纏めている所である。

5. ACTIVITY REPORTS の発行

センターが平成15年に省令施設として発足したので、平成15年度、平成16年度の活動報告として、英文でACTIVITY REPORTSを平成17年度末に発行し、関係方面に公表・配布した。

6. ホームページ

センターは、その活動を広く宣伝する目的で、ホームページを設けており、適時情報発信を行っている。